



『じつは伝わっていない日本語大図鑑』
山口諤司／監修
東洋経済新報社 ¥1,400 (税別)

親が、自慢の子どもに「鼻が高いよ」と言っても、子どもには通じないかもしれない。親と子、上司と部下、年配者と若者といった世代間では、言葉の真の意味が伝わらないようだ。現代の若者には理解が難しい言葉をイラストや例文と共に紹介。



『13歳から考えるハンセン病問題』
江連恭弘、佐久間建／監修
かもがわ出版 ¥1,600 (税別)

ハンセン病とはどのような病気か、感染症に対する偏見や差別の歴史をわかりやすく解説する。新型コロナウイルスへのパッシングに見られるように、感染症への差別は身近にある。差別のない社会を作るために何ができるかを考えるための一冊。



『杉森くんを殺すには』
長谷川まりる／作 おさつ／装画・挿絵
くもん出版 ¥1,400 (税別)

高校1年生のヒロは、杉森くんを「殺す」ことにした。中学3年から不登校になった幼なじみの杉森くんは、自殺を図った。杉森くんのSOSを受け止められなかったことを後悔するヒロが、周囲の人たちに支えられながら、立ち直る日々を描く。



『中学生が伝える恐ろしいやまい・地方病』
堀真一郎／監修 南アルプス子どもの村中学校ゆきほたる荘／著
黎明書房 ¥1,700 (税別)

昔、甲府盆地に、お腹が膨らみ、やせて、やがて亡くなる病気「地方病(日本住血吸虫症)」があった。病気の原因が寄生虫だと突き止め、病気をなくす活動に関わった人々や努力について、中学生たちが調べ絵本にした。解説や参考資料付き。



『ぼっち現代文』
小池陽慈／著
河出書房新社 ¥1,420 (税別)

いつも「ぼっち」で人間関係を悩んだ経験を持つ著者の「人間関係を考えるうえで助けになった10冊の本」を読み解きながら、人と人のつながりについて考えることができる。国語に苦手意識を持っている人にもぜひ読んでほしい。



『ようこそ！富士山測候所へ』
長谷川敦／著
旬報社 ¥1,600 (税別)

標高の高い場所で通年観測を行うため建てられた富士山測候所。過酷な環境下でも諦めず、天気予報の発展を目指し奮闘した人々のあゆみと、自動観測技術が進み役目を終えた今でも、地球温暖化などの研究で使われている現在の姿を描く。



『夜空にひらく』
いとうみく／著
アリス館 ¥1,600 (税別)

アルバイト先で暴力事件を起こし、試験観察処分となった17歳の円人。補導委託先として、山梨県で煙火店を営む深見家に預けられた。円人は、深見とその家族、住み込みの花火職人たちの温かい心に触れ、自分自身を見直し、成長していく。



『ルール！』
工藤純子／著
講談社 ¥1,500 (税別)

中学2年生の知里は、校則違反でスマホを没収されたのをきっかけに、部活の仲間と一緒に理不尽な校則を変えようと考えた。生徒会と共に、無関心な生徒に働きかけ、PTAや地域住民の理解も得ながら、自分たちにふさわしい校則を作ろうと奮闘する。

『スマホアプリはなぜ無料？』
松本健太郎／著 河出書房新社 ¥1,420 (税別)

『ぼくらは星を見つけた』
戸森しるこ／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『つる子さんからの奨学金』
まはら三桃／作 偕成社 ¥1,300 (税別)

『夢の叶え方はひとつじゃない』
岡嶋かな多／著 PHP 研究所 ¥1,300 (税別)

『ハーベスト』
花里真希／著 講談社 ¥1,500 (税別)

『私の職場はサバンナです！』
太田ゆか／著 河出書房新社 ¥1,420 (税別)

『フォグ』
マルタ・バラツェージ／作 杉本あり／訳 Naffy／イラスト 岩崎書店 ¥1,600 (税別)